

平成 30 年度 第 1 回 医療・健康セミナー

とき：6月20日(水) 17:00～19:00

ところ：青森新都市病院 3階 講堂

第1部 安静は麻薬・運動は万能薬 ～なぜフットケアが大切か～

最近の研究で、過度な安静は身体能力を悪化させる一方、運動をすると筋肉から一種のホルモンが分泌され、全身が活性化されることが分かってきました。

運動の基本は歩くことです。つまり、足が健康でないと運動が出来なくなり、ひいては寝たきりになってしまいます。

安静の弊害と運動の有用性をご説明します。



演者

和歌山県立医科大学
リハビリテーション医学講座
教授 田島 文博氏



座長

岩手医科大学 医学部
リハビリテーション医学科
教授 西村 行秀氏

第2部 糖尿病患者の歩行を守る

糖尿病性足潰瘍は増加の一途である。

われわれは、潰瘍の病因である①末梢神経障害②末梢血管障害③感染症から、潰瘍の病態を以下の4つに分類し、治療最優先を示した「神戸分類」を提唱している。

糖尿病性足潰瘍の「神戸分類」

タイプⅠ：末梢神経障害による潰瘍

タイプⅢ：感染症による潰瘍

その治療の骨格を

タイプⅠ：フットウェア

タイプⅢ：デブリードマン

タイプⅡ：末梢血管障害による潰瘍（重症下肢虚血）

タイプⅣ：重症下肢虚血に感染を併発した潰瘍

タイプⅡ：末梢血行再建術

タイプⅣ：末梢血行再建術とデブリードマン

しかし、糖尿病性足潰瘍の治療の目的は「患者の歩行を守る」ことであり、創傷治療や血行改善はそのための手段に過ぎない。

治療に時間を要すこの厄介な難治性創傷に対して、いかに「歩行」を維持させようと考えているかを創傷治療を混ぜながら話したい。



演者

神戸大学大学院 医学研究科
形成外科学
教授 寺師 浩人氏



座長

北海道大学大学院 医学研究科・医学部
機能再生医学講座 形成外科学分野
主任教授 山本 有平氏